

第7回

B&G 全国サミット

B&G 海洋センターの更なる活用で地域を元気に!!



2013年 B&G特派員フォトコンテスト金賞受賞作品

2015年1月28日(水) 笹川記念会館

■第1部 14:00~

1. 主催者挨拶 B&G財団 会長 梶田 功
2. 来賓紹介
3. 特別基調講演
「ハンセン病を考える 日本と世界の今」 日本財団 会長 笹川 陽平 様

休 憩

■第2部 (議事)

4. 正副会長の選任・挨拶
5. 第11回B&G全国教育長会議の報告 高知県津野町 教育長 川上 一郎 様
6. B&G財団からの事業説明
7. 海洋センターを活用した取り組み事例の発表
 - 町民の集うB&Gをめざして 愛媛県久万高原町 町長 高野 宗城 様
 - ながしまサマースクール 鹿児島県長島町 町長 川添 健 様
~B&G全国サミットで結ばれた北と南の友情物語~ 北海道東神楽町 町長 山本 進 様
 - プラチナ社会を目指して 島根県雲南市 市長 速水 雄一 様
8. B&G財団への要望等
9. 第7回B&G全国サミット共同宣言の確認

■第3部 (表彰)

10. 2014 B&G広報大賞表彰
11. 優良海洋センター表彰

■交流会 17:30~ 4Fホール



公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
会長 梶田 功

本日は、第7回「B&G全国サミット」を開催いたしましたところ、公務ご多忙のなか、全国390カ所の海洋センター所在自治体から、首長・教育長をはじめ、大変多くの関係者のご出席をいただき、衷心より厚くお礼申し上げます。

また、B&G財団に、多大なご支援をいただいております日本財団をはじめ、ボートレース関係団体の代表者にもご臨席をいただき、重ねて厚くお礼申し上げます。

東日本大震災発生からまもなく4年を迎えようとしておりますが、今も被災地の多くが、復興に向けた懸命な努力を続けておられます。当財団では被災地の厳しい現状を決して風化させることなく、引き続き支援や協力を続けていくため、全国の海洋センター・海洋クラブに対し、今年度改めて日本財団の「ROADプロジェクト 東日本大震災支援基金」へのご協力をお願いいたしました。その結果、大変多くのご賛同をいただきました事にこの場をお借りして、心から感謝を申し上げます。

さて、この「B&G全国サミット」は、全国の海洋センター所在自治体の首長、教育長が一堂に会し、B&G財団と自治体、また自治体相互の情報を共有し、未来を担う子ども達の健全育成をはじめ、地域の活性化・発展を目指し、連携を強化するための最重要会議でございます。

昨年5月に「日本創成会議」は、このまま人口減少が続けば2040年には国内の半数を超える市区町村が消滅の恐れがある、と大変ショッキングな発表を行いました。多くの自治体が少子高齢化をはじめ、産業・雇用の創出、コミュニティの再生など課題が山積する中、ますます地域の活力が奪われてしまうと強い危機感を感じておられます。

そのようなことから、本日の会議は「B&G海洋センターの更なる活用で地域を元気に!!」をテーマに、自治体の取り組みや財団の支援など検討してまいりたいと考えております。

また、会議に併せ、皆様が大変楽しみにされておられます、日本財団の笹川陽平会長による「ハンセン病を考える 日本と世界の今」と題した特別基調講演を頂きます。

会議終了後には、ささやかではございますが「交流会」を用意しておりますので、引き続き情報交換などを行っていただきますようお願い申し上げます。

おわりに、当財団は、「青少年の健全育成」はもとより、今後は様々な団体の皆様と連携し「地域の元気づくり」、「海洋教育の推進」など時代に即した新たな取り組みを展開してまいり所存でございます。どうぞ本日ご出席の皆様には引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

BIG 人的ネットワーク強化事業

各階層ごとに開催される会議により、B&G財団と「海洋センター」所在自治体との人的ネットワークの強化に努める。

「B&G全国サミット」

対象:市町村長・教育長



平成15年度から6回実施(平成23年度から毎年実施)。延べ1,049名の首長をはじめ3,731名が参加。平成25年度は首長213名、副首長42名、教育長195名など、合計760名が参加。

「B&G全国教育長会議」

対象:ブロック幹事教育長・道府県連協代表教育長



平成14年度から11回実施。延べ745名の教育長等が参加。平成26年度は44道府県から教育長38名、首長部局責任者2名など、合計78名が参加。

「B&G全国指導者会総会」

対象:B&G指導員資格所有者・海洋センター担当者



平成21年度に全国17,000人の「B&G指導者」により設立。未来を担う子供たちのために、更なる連携協力を図ることが目的。平成27年度には「第三回B&G全国指導者会総会」を開催(総会は3年に1度実施)。

特別基調講演 「ハンセン病を考える 日本と世界の今」



日本財団
笹川 陽平 会長

【略歴】 1939年 東京生まれ。明治大学経済学部卒。

ハンセン病の世界制圧を目指し、世界保健機関ハンセン病制圧特別大使として1年の3分の1近くを発展途上国の現場で活動している。1985年に122カ国あったハンセン病未制圧国も、現在はブラジル1カ国を残すのみとなった。

医学的な制圧だけでなく、ハンセン病のもう一つの問題であるスティグマや差別との闘いも開始。2003年には初めて国連人権高等弁務官事務所を訪問し、人権問題として取り上げられることを要請した。これらの働きにより2010年12月には国連総会でハンセン病患者、回復者、その家族に対する差別撤廃が決議された。

平成26年11月には、40年以上にわたりハンセン病制圧や患者・回復者が直面している差別と人権侵害をなくすために、WHO、各国政府、国際機関、非営利機関と密に協力して世界的に活動を続けてきたことが評価され、国際法曹協会 (IBA) から、いわゆる法曹界のノーベル賞といわれる「法の支配賞」を日本人として初めて受賞。

次代を担う人材を養成しようと多様な教育プログラムを展開。世界69大学に奨学制度を設け、グローバルな視点で行動できる人材を養成、卒業した笹川奨学生は13,000人を超え、世界的なネットワークを構築している。

中国においては、30年間で2,200人以上の中国人医師を日本の大学医学部や医療機関で受け入れてきた。世界海事大学の奨学制度をはじめ海洋の専門家の育成にも取り組む。

2013年2月には日本政府より「ミャンマー国民和解担当日本政府代表」に任命され、60年以上の長きにわたり闘い続けてきたミャンマー政府と少数民族武装勢力との信頼醸成のため奔走している。

40年以上にわたるマラッカ・シンガポール海峡の航行安全のための活動では、その功績が認められマレーシア国王からタン・スリ称号を拝受。旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所の事故後、20万人の子ども達の健康診断を実施し、ロシア友好勲章を受章した。ミレニアム・ガンジー賞、読売国際協力賞など多数受賞。

国内外での活動は「日本財団会長 笹川陽平ブログ」で紹介している。



【日本財団会長 笹川陽平ブログ】
<http://blog.canpan.info/sasakawa/>

【主な著書】

- 『知恵ある者は知恵で歩く』（クレスト社）
- 『外務省の知らない世界の“素顔”』（扶桑社）
- 『二千年の歴史を鑑として』（日本僑報社）
- 『この国、あの国』（扶桑社）
- 『世界のハンセン病がなくなる日』（明石書店）
- 『人間として生きてほしいから』（海竜社）
- 『若者よ、世界に翔（はばた）け!』（PHP研究所）
- 『不可能を可能に 世界のハンセン病との闘い』（明石書店）
- 『隣人・中国人に言っておきたいこと』（PHP研究所）
- 『紳士の「品格」』（PHP研究所）

【最新著書】

- 『残心 世界のハンセン病を制圧する』（幻冬舎）



第7回 B&G全国サミット 共同宣言（案）

一. 海洋センターとの連携

B&G財団と全国390市町村との連携をさらに深め、一丸となって
“B&Gプラン” =スポーツ・健康・人づくり=を推進する。

一. 施設の運営と管理

市町村合併の有無にかかわらず、今後も“B&Gプラン”の趣旨に則り、全ての施設について
善良なる維持・管理に努め、運営にあたっては“B&G指導員”を適切に配置する。また、
その推進のため“B&G指導者会”を設立し、その活用を図る。

一. 積極的な事業の推進

“B&Gプラン”の理念を再認識するとともに、B&G財団が実施する新たなソフト事業を最大
限に活用し、青少年の健全育成と地域住民の健康づくりを積極的に推進する。

一. 情報・ノウハウの共有

海洋センターの情報・ノウハウを共有し、コンパスと人的ネットワーク、そしてブロック
連絡協議会を通じて地域交流の促進、及び地域海洋センターの活性化を図る。

一. 環境・防災・水辺の安全教育の推進

全国の海洋センター・指導者会などが協力し、青少年の「生きる力」を育む“自然体験活動”
と“環境・防災・水辺の安全教育”を積極的に推進する。

一. 「東日本大震災」の復旧・復興

日本一の「健康・人づくり」のネットワークを活用し、今後とも各種の支援活動を継続する
とともに、B&G「日本元気復活事業」などを通じ、被災地に元気と希望を提供する。

2015年1月28日

海洋センター所在市町村長一同

寄付金の募集を開始いたしました(B&G財団)

～みなさまのご支援お願いいたします～

日本の未来を担う子供たちを、体験豊かに元気よく育てたい。
大切な子供たちを悲しい水の事故から守りたい。
ハンディキャップを持つ子供たちや親のいない子供たちにも、
同じ社会のなかで伸び伸びと健やかに活動してもらいたい。
こんな素敵な未来を皆さんと一緒につくっていききたい。
それがB & G財団の願いです。

子供からお年寄りまで、笑顔をつなげていくために。
あなたの力を寄付というカタチで行動へ

寄付の詳細

www.bgf.or.jp



※スマートフォンアプリを利用した「かざして募金」でも寄付いただけます。詳しくは寄付の詳細ページをご覧ください。